ジャディアンス®を服用される患者さんへ

本剤は、尿中に糖を排泄して血糖を下げる薬です。

1日1回服用してください。

- 毎日、朝食前または朝食後に、水またはぬるま湯で服用してください。

飲み忘れた場合には2回分（2日分）を一度に飲まないでください。

- 決められた時間に飲み忘れたら、忘れた分は飲まずに、翌日の朝に1回分を飲んでください。
- 誤って多く服用したときは、低血糖※1に注意し、医師または薬剤師に相談してください。

※1 低血糖については、中面「低血糖の症状」をご参照ください。

医師の指示なしに、服用を中止しないでください※2。

※2 インスリン注射をされている方はご自身の判断で注射をやめたり回数を減らしたりしないでください。

ジャディアンス®の服用中*は下記の症状に注意し、

低血糖の症状

空腹感　動悸　ふらつき　頭痛
脱力感　めまい　冷や汗

症状が現れたら、まずはブドウ糖を、ない場合は砂糖や糖質を含むジュースなどを摂ってください※3。

※3 α-グルコシダーゼ阻害薬との併用時には、砂糖ではなくブドウ糖を摂るようにしてください。

症状の回復がみられない場合にはすぐに医師に相談してください。
薬の飲み合わせで低血糖が起こりやすくなることがあります。
他の薬を飲まれている場合は、医師・薬剤師に伝えてください。

ケトアシドーシスの症状

悪心・嘔吐　食欲減退　腹痛　異常に喉が渇く
体のだるさ　呼吸困難　意識障害

血糖値に関わらず、このような症状がでた場合、ただちに医療機関を受診してください。以下にあてはまる方は、注意が必要です。

- 医師からインスリン分泌能が低下しているといわれている方
- ご高齢の方
- 利尿剤を飲まれている方
- 腎機能が低下している方
- 最近インスリンの減量や中止を行った方
- 発熱や下痢などで食事が摂れない方
- 感染症がある方
- 脱水を起こしやすい方

米、パン、めん類などの糖質の過度な制限は避けるようにしましょう。
ジャディアンスを中止した後も、症状が続くことがあります。
ジャディアンスを飲んでいたことを医師に伝えてください。

*本剤服用中は一部の臨床検査の項目（尿糖、血清1,5-AG）に影響が出ることがあります。

症状があらわれた場合は、医師にご相談ください。

脱水の症状

喉が渇く　体のだるさ　めまい　尿量の減少

服用初期は薬の作用によりトイレの回数や尿の量が増えることがあり、脱水症状を起こすおそれがあります。

脱水を予防するために、服用中は、こまめな水分補給を心がけ、ご自身の判断で水分補給を中止しないでください。

気温が高い時期や下痢や嘔吐があるとき、血糖管理が極めて難しい方、ご高齢の方、利尿剤を飲まれている方、腎機能が低下している方は特に注意が必要です。

水分補給のポイント

服用初期▶喉が渇く前に水分を摂る

SGLT2阻害薬服用初期は尿量増加がみられるので、しっかり水分を摂ってください。
SGLT2阻害薬服用により、服用1日目にはジャディアンス10mg群ではプラセボ群に比べて、約500mLの尿量増加がみられています[1)]。

日常生活の注意

- こまめに水分を摂る　例:朝(起床後)、トイレの後、入浴前後
- 気温が高い時期には、喉が渇いていなくても早めの水分補給を心がける

服用継続期▶喉が渇いたら水分を摂る

服用初期にみられた尿量増加は、持続的にはみられません。
服用時の尿量は飲水量が規定因子となり[2)]、飲水量や回数を過度に増やすことが尿量の増加や頻尿に繋がります。

ご高齢の方は服用に関わらず、普段からこまめに水分を摂る

体液量減少の有害事象は、服用に関わらず高齢になるにつれ発現率が高くなります。

1) Yasui A, et al.: *Diabetes Ther.* 2018; 9: 863-71.
2) Tanaka H, et al.: *Adv Ther.* 2017; 34: 436-51.(他のSGLT2阻害薬での検討に基づく)

監修：川崎医科大学総合医療センター 特任部長
川崎医科大学 名誉教授　加来 浩平 先生

本剤を服用していることを医師に伝えてください。

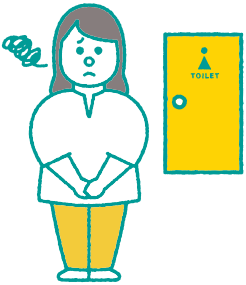
尿路感染の症状

- トイレが近い
- 排尿時の痛み
- 残尿感

性器感染の症状

- 陰部のかゆみ
- 女性の場合　おりものの色やにおいの変化

尿路感染および性器感染から重大な感染症（腎盂腎炎、フルニエ壊疽、敗血症等）に至ることがありますので、以下のことに日ごろから気をつけましょう。



・トイレを我慢しないように
・陰部を清潔に
・十分な水分補給

異常に気づいたときは、医師にご相談ください。
特に、局所の熱感や疼痛、皮膚に黒色変化がみられる場合は直ちに受診してください。

皮膚の症状

- 皮膚の赤み
- かゆみ
- ニキビのような発疹

皮膚の症状に気づいたときは、
すぐに医師にご相談ください。

日本ベーリンガーインゲルハイム株式会社

Boehringer Ingelheim

2025年9月作成
012569-K